

## 平成 18 年度第 2 回理事会議事録

社団法人 日本滑空協会

理事会 平成 19 年 3 月 10 日（土） 13:30-15:00 於航空会館 502 会議室で開催

出席：理事 12 名 オブザーバー 2 名、事務局 1 名 敬称略

牧野健会長、坂井正一郎、吉田正克、甲賀大樹各常務理事、秋山崇道、大平雅大、鈴木康一、中塚総一郎、万場泰雄、増谷一夫、吉田茂、熊谷功二（鈴木明治氏後任）各理事  
高田豊信顧問（オブザーバー）、野田迪郎（岡井紀道理事代理オブザーバー）  
加藤ひろみ（事務局 議事録）

欠席（委任状提出）：5 名 板倉忠興、近藤良四郎、土屋宣幸、岡井紀道、中村暢宏、各理事  
（委任状提出なし）：2 名 市川展、中澤愛一郎、各理事

出欠者数は総会開催時刻までに到着した委任状までを集計

定足の確認：定足 13 名（理事数 19 名の 2/3）：出席理事 12 名、委任状提出 5 名 合計 17 名で理事会成立。

議事録署名人：議長牧野健会長より坂井正一郎常務理事および大平雅大理事を任命。

### 議事

第 1 号議案：平成 19 年度事業計画（案）承認の件

甲賀常務理事より議案の説明があり、質疑の後、全員一致で承認。

第 2 号議案：平成 17 年度収支予算案（案）承認の件

甲賀常務理事より議案の説明があり、全員一致で承認。

第 3 号議案：監事就任について

甲賀常務理事より議案の説明があり、全員一致で承認。

### 理事会中の質疑およびコメント

- \* 中塚理事 定款改正は議案でないのかとの発言があった。これは平成 19 年度第 1 会総会議案とする予定で、来期ははじめから準備に入る。
- \* 増谷理事 通常総会回数変更の定款改訂の際、当協会名称を「滑空」から「グライダー」に変更すべきとの意見がある旨発言があった。複数理事から異なる意見が述べられ、議長から、調査、検討が必要であり、予定している「通常総会回数変更の改訂」とは結び付けないことにすると意向が出され、了承された。
- \* 増谷理事より IGC 委員等の選出基準が不明確との発言があった。年度ごとに FAI NAC の要請で、JSA が推薦している。現在の委員は牧野会長、3 月の IGC 総会は梅谷氏が Delegate として出席。IGC 総会で日本滑空界の意見を代表して発言し、総会結果を日本滑空界に報告するべき。
- \* 増谷理事より理事の選出基準が不明確との発言があった。企業で取締役を決める場合、取締役会で候補者を立て株主総会で承認。法人改革では、公益財団法人では第三者委員会を設け、候補者選出を行うよう規定されている。社団法人ではそこまで規定されていない。現在は候補者推薦を受け理事会で候補者選出、総会議案として提出しており、これが現実的と考える。
- \* 増谷理事より耐空検査員が何名か任命されることになっているとの発言、ならびに耐空検査員事務局は航空局に返上したままで良いのではないかと意見があった。高田顧問より、この関連での活動、新耐空検査員任命の経緯、耐空検査員事務局の必要性などの説明があった。

- \* 秋山理事より“藤倉チャリティカップ”開催についての説明および協力要請があった。当協会として後援し、ホームページなどで広報支援を行う。PDF書類添付
- \* 甲賀常務理事より協会運営上の問題点説明（後述）
- \* 委任状に記載された意見の紹介および見解（甲賀常務理事）（後述）

以上

平成 19 年 3 月 10 日

議長                      会長

議事録署名人          常務理事

同                              理事

この写しは議事録の原本と相違ないことを証する。

会長

## 平成 18 年度第 2 回通常総会議事録

社団法人 日本滑空協会

総会 平成 19 年 3 月 10 日（土） 15:30-17:00 於航空会館 502 会議室で開催

出席 会員 19 名 事務局 1 名 敬称略

秋山崇道、大平雅大、熊谷功二、甲賀大樹、坂井正一郎、佐志田伸夫、鹿野元章、鈴木康一、鈴木茂夫、高田豊信、玉中宏明、中塚総一郎、野田迪郎、万場泰雄、牧野健、増谷一夫、松澤俊明、吉田茂、吉田正克  
加藤ひろみ（事務局 議事録）

欠席：委任状提出：117 議決権行使 211 うち各案反対各 1 票、無効票 6（不達 3、署名なし 3）  
有効出席者総数 347

出欠者数は総会開催時刻までに到着した委任状までを集計

定足の確認：定足 322（正会員 634、団体会員 10 合計 644 の 1/2）：出席 19、委任 117、議決権行使 211、合計 347 で総会成立。

議事録署名人：議長牧野健会長より坂井正一郎常務理事および大平雅大理事を任命。

### 議事

第 1 号議案：平成 19 年度事業計画（案）承認の件

甲賀常務理事より議案の説明があり、質疑の後、全員一致で承認。

第 2 号議案：平成 17 年度収支予算案（案）承認の件

甲賀常務理事より議案の説明があり、質疑の後、全員一致で承認。

佐志田氏より補助金使途について質問。飛行イベント：異常姿勢回復、クロスカントリークリニックなどの実行費用。

増谷理事より JCC 活動について質問。大平理事、高田理事より JCC は競技委員会に移管された旨説明があった。ホームページはあるが活動は行っていない。有意義な内容があり、バッジなどの資産もあるので、活用できるようにしたい。

鹿野氏よりスポーティングライセンス申請料について質問。JSA 会員の申請維持費用は当協会負担のため、JSA から JAA に支払っている。

佐志田氏より不良資産償却の内容について質問。古いパンフレット類などを資産から除却することです。

鈴木理事より指定養成の入所料は一般 6 万円、学生 5 万円、予算では 5 万円で計上との指摘。収入算定を少なめに計上しているため。

第 3 号議案：監事就任について

甲賀常務理事より議案の説明があり、全員一致で承認。

### その他議論

\* 増谷理事から、役員の選任について、もっとオープンに募集して行くべき、若年層、活発に活動している地域などから理事を迎えるべきとの意見が述べられた。

坂井常務理事から定款上 20 名までで、オープンにするには選挙規定などの整備が必要との発言。



## 滑空活動の振興のために

常務理事 甲賀 大樹

### I 愛好者（会員：主としてパイロット、および支持者）の増大及びその施策 （太字の施策は未実施、細字は実施済みです。）

- (1) 若年会員の入会促進（当協会年齢構成グラフ参照）H19 年度重点施策として実施  
（財）日本学生航空連盟、（学）日本航空学園など新卒者の勧誘（未：秋山理事発案）  
新卒者歓迎飛行体験会を滑空クラブで実施（未）  
若年会員の重点育成（未）  
若手理事の就任

- (2) パイロットだけでなく、サポーターを含むグライダー愛好者の増加施策  
個人、企業、団体への働きかけ（未）

### II パイロットのレベル向上およびそのための施策

#### (1) 競技推進

##### 世界選手権支援（未）

- 日本選手権開催（中断）
- クラブクラス競技会開催（中断）

#### (2) クロスカントリーソアリング推進

JCC 活動（中断）

##### リード&フォロワー（未）

クロスカントリークリニック（既）

##### エリア慣熟（未）

##### 若年層パイロットの育成支援（未）

#### (3) 基礎トレーニング推進

- 団体会員の活動：当協会団体会員（財）日本学生航空連盟、日本航空学園の活動（既）
- 指定航空機従業者養成施設（既）
- シラバス（準備中）
- 国内滑空記章制度（既）

### III 安全性向上およびそのための施策

航空安全講習会（既）

異常姿勢からの回復トレーニング（A 章レベル～競技レベル）（既）

##### 航空交通・フライトプラン（未）

##### 空中衝突予防ガグルクリニック（未）

ヒヤリハット情報共有（準備中）

### IV 会員相互の交流促進およびそのための施策

グライダー愛好者は JSA 会員 630 名 日本学生航空連盟会員 700 名その他で合計 3000 名程度と  
少人数、それならばもっと交流を活発にしたい。

- (1) 当協会は後援規定を HP に公開、申込を募集し、以下を推進する。

#### ① 滑空場の相互活用

滑空場を公共インフラとしてオープンにし、基地滑空場だけでなく近隣滑空場にも相互離着陸

する風土を作る。このためには各滑空場で離着陸要領を作成し、公開する必要がある。さらに利用するパイロットが各滑空場のルールを遵守する必要がある。

- ② 他滑空場パイロットにもオープンなクラブクラス競技会などを開催する。
- ③ インストラクター・練習機をオープンにする  
滑空場ごとに得意な課目のトレーニングセミナーを開催する。
- ④ 機体・機材をオープンにする。相互利用、リース

(2) 各地に当協会支部を作り、地域の特性にあった活動を行う

## V 当協会の強化

(1) 現在の陣容ではマンパワー不足、会員の積極的参加を期待する。具体的には特定の課題に対して検討し、実行案をまとめる作業を担当していただく。

(2) 現在実施されている時間拘束ある対外的約束を果たす業務は有給とする。

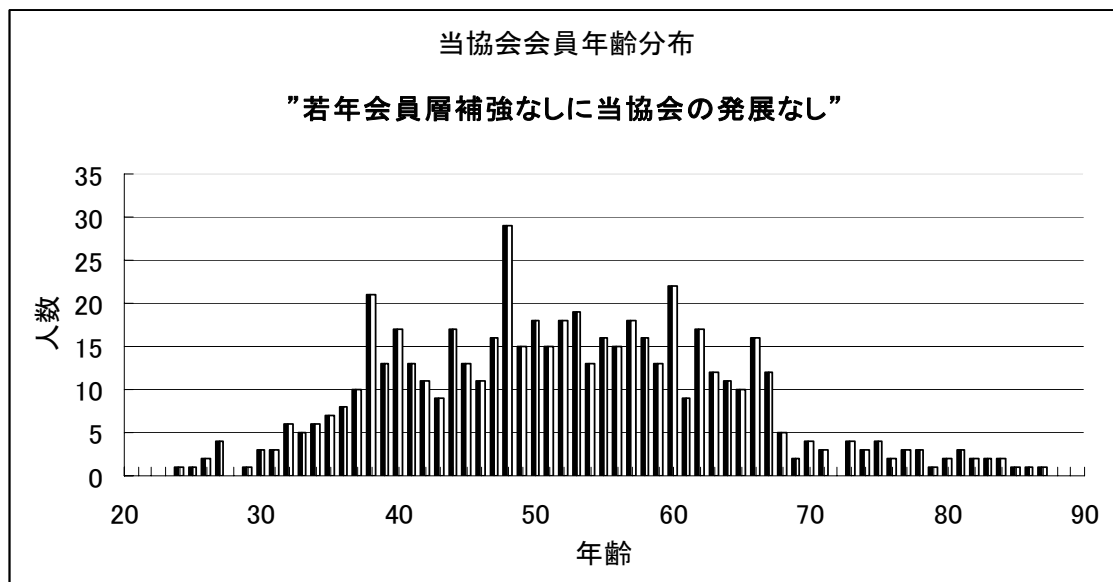
航空従業者指定養成施設業務、航空安全講習会業務に加え、機関紙発行業務、ホームページ発行業務を追加する。」

(3) 各種データ収集

客観的データ無しに有効な施策策定は不可能。滑空場情報、滑空クラブ情報、機体機材情報、活動実績などのデータ収集を行う。

## VI その他（担当者募集）

- 滑空場情報、滑空クラブ情報、機体機材情報、活動実績などのデータ収集。
- 会員の中の専門家リスト（無線検査員、弁護士、税理士、など）を作成し、会員が相談できるようホームページに掲載。
- 支部運営に関する制度設計を行う。
- 理事選任規定、各種委員選任規定の作成。
- 日本選手権開催準備。
- JCC 活動再開。
- 機関紙編集委員。



## 総会委任状意見欄

まとめ 常務理事 甲賀 大樹

議案への反対票：議案1 事業計画反対1（大友宏之氏）、議案2 予算案反対1（藤元清司氏）

議案3 監事承認反対1（藤元清司氏）

当協会の名前を変更する。滑空よりグライダーにすべき。 増谷一夫理事

（好みの問題とも言える。現状で名称変更を行うと、徹底できなければ混乱を招くだけでなく、事務用品や文書類すべての名称変更に伴う費用と業務が発生し、期待する効果に比べて手間が大きすぎる。グライダーというとパラグライダーやハンググライダーを連想する人が多い。）

会員をふやすために入会金というハードルをなくしては？ 堀田省二郎氏

（入会金を無くすと、会員の入退会が繰返され、無意味な事務作業が増える。）

変な競技会はやる必要なし。大友宏之氏

（何をしたら当協会の発展：我国の滑空界の発展になるのか、ご提案を期待する。）

機関紙の文字と大きくして欲しい。森良治氏

（会員の平均年齢から賛成で、そのようにしたい。）

全国の理事が各地で懇談会や説明会を開催してはどうか。 篠原治男氏

（これは理事だけでなく、会員各位、どなたでも出来る。実施を申し出ていただくことを期待。まず総会にご出席いただきたい。）

クロスカントリークリニック、ミニコンペを開催したいので後援して欲しい。 中澤仁一氏

クロスカントリークリニックなどの企画に期待している。 種田淳氏

滑空界の活動を活性化するのに、学生航空部への直接間接の支援を提案したい。 長谷川洋氏

（ご意見趣旨、今年の重点施策として実施する。）

協会に新しい動きが見られる。事業計画は全面的に賛成。 古谷眞之助氏

（努力を認めていただき感謝。会員各位も新しい動きをしていただきたく、期待。）

加齢による能力低下が事故の遠因ではないか。 石山滋氏

（具体的データで立証して、どのようにして防止するのか、皆で考えたい。専門家のコメントを期待。）

飛行計画についての航空法施行規則が確定されたとのこと、問題です。 菊池光基氏

（航空法あるいは施行規則の上で、どうなっているか、専門家の検討と当協会としての対応法をご提案いただきたい。）

タイフーンの顛末を報告せよ、JSAはモーターグライダー1機の運航能力もないのか。 加藤義和氏

（JSAは単なるモーターグライダー・クラブになるのが目的とは考えていない。責任持ってタイフーンを運用する会員には運用を委託。申出を期待。）

今まで無報酬だった役員報酬に予算がついた事は疑問。 北川淳一氏

（いくら趣味の活動でも対外的な責任が発生し、いやおう無くだれかがその責任を果たしている。指定航空従業者養成施設運営、航空安全講習会技量維持委員会活動、日常的事務処理業務は僅少ではあっても、報酬ありで行われている。定款にあるとおり、常務理事は常勤的執務状態であり、かつ対外的責務を伴う活動である実情を考慮して、役員報酬を支払うのが適当と判断され実施されている。少なくとも平成14年度、15年度にも予算に入れてあった。今年度から機関紙発行、ホームページ発行なども同じ扱いとしたい。）

活動資金として寄付、助成、補助金を熱心に集めてはどうか。 小黒公一氏

(現在当協会は会費収入以上を協賛金、助成金で賄っており、他団体と比較してその割合はきわめて高い。

寄付というのは使途無拘束の資金提供で自由に使えるが、今時ご寄付いただける企業は無い。お心あたりを紹介下さい。

助成金補助金は同じ概念で、使途、応募、実施、報告など厳密に規定され、膨大な事務作業を伴う。H18年度、当協会は子どもゆめ基金、スポーツ振興基金から合計200万円程度までの助成金をイベント終了後清算としていただく予定。助成金を活用するには、会員各位がイベントに対して、運営メンバーならびに参加者として、参加する必要がある。協賛金は特定のイベントと一緒に実施し、資金提供することで、助成金とほぼ同様な配慮が必要。)

以上



## 議事録署名のお願い

平成 18 年度第 2 回総会および理事会の議事録の自筆署名および押印をお願いします。

(1) 坂井常務理事 → 大平理事 → 牧野会長 → 事務局 の順をお願いします。  
切手を貼った封筒を入れておきますので、ご利用ください。

(2) 署名は自筆をお願いします。坂井さん、大平さんは理事会議事録 1 箇所、総会議事録 1 箇所です。  
牧野さんはそれぞれ 2 箇所のご署名をお願いします。

よろしくをお願いします。

甲賀 大樹

滑協第 18-23 号

平成 19 年 3 月 28 日

文部科学大臣

冬柴 鐵三 殿

社団法人 日本滑空協会

会長 牧野 健

平成 19 年度事業計画書ならびに収支予算書（お届出）

当法人の平成 19 年度事業計画ならびに収支予算について、  
別紙のとおりお届けします。

以上

添付

1. 平成 19 年度事業計画書
2. 同 収支予算書
3. 平成 19 年度第 2 回理事会ならびに総会議事録